



繪本通俗三國志六篇卷之七

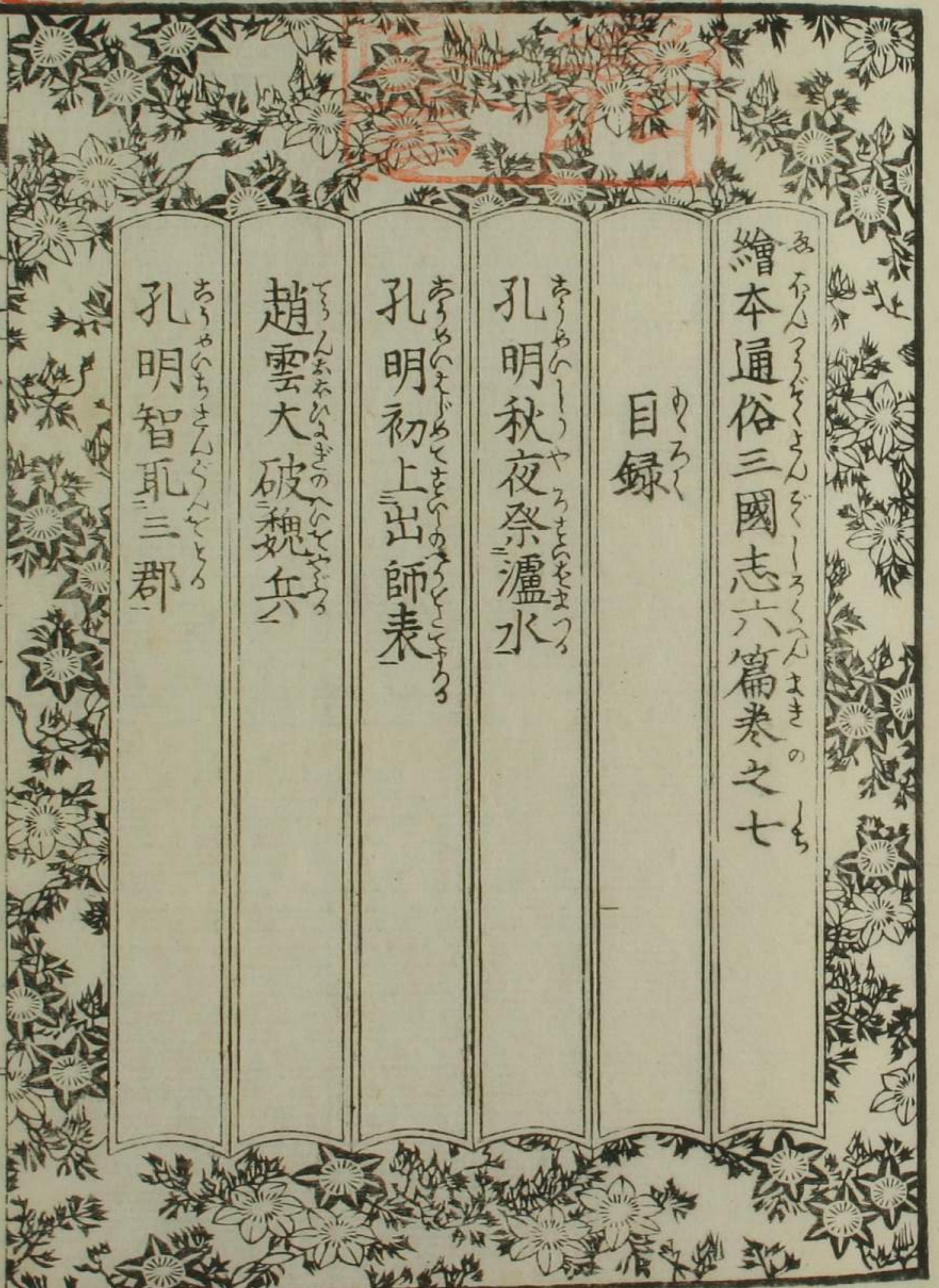
目録

孔明秋夜祭瀘水

孔明初上出師表

趙雲大破魏兵

孔明智取三郡



繪本通俗三國志六編卷之七

孔明秋夜祭瀘水

蜀の建興三年秋九月。孔明より圖々南蛮を攻順へ勝軍を
收て都々回りけり。南蛮王孟獲。りくろくの洞主首長を
率てはるぐと相送。先陣まで瀘水の岸みちう付あ
れべ。俄々雲あらひ霧あらり。狂風沙と飛し。白浪天てんみふ
ぎりて渡ふまき便は。孔明もとぞやく。孟獲もそのゆへ戦
問を答て曰く。此の河を昔より猾神ありて。やくりすまき。禍
とある。往来の人。祭をあさざれ。何もたやとく通とある。へど。
孔明問て曰く。いあら物とりて。祭とあそぶき。孟獲が曰く。昔よ
り。此の水神を祭る。七。四十九の。人乃首を切て。黒き牛。白き

羊とウリと。あまとと具ふるとたへ風靜々浪穏々して年も自ら豊う。孔明曰く。まことに今南蛮と平定して安んじ人を妄々殺をふきとて自ら岸の辺々生石の者とよんで問けり。老人數十人きたれて曰く。さて巫相の典所と御通ありて後毎夜鬼神の哭き号声にて曉よりとるまで人の毛孔を寒くしむ。何さ々瘴烟の中々壯びある。舊鬼ありまつ。禍をあすとぞてハ孔明嘆息して曰く。まとも積惡のあそと不あり。さをよ馬岱兵を引て。あの河を渡りて。松百人毒々當く水中々せびたり。ちの外南蛮の兵。うだうちく此辺々て討れりべ。その魂魄怨々懐て崇々あそと覺へどり。今夜まがうち祭るべーとて膳夫をよびよせ牛馬の肉とりて麪々和し。人の形

首を作り。あまとと饅頭と名付。四十九の首と代。今。の饅頭。よの遺法う。よの夜岸よとふく。招覓の旗よとて。四十九の燈火とけらゆて。三更の時。狂風や。浪平ありけり。孔明金冠といふ。鶴轡を被て。林人おろす。董厥々命じて祭文と詔しむ。

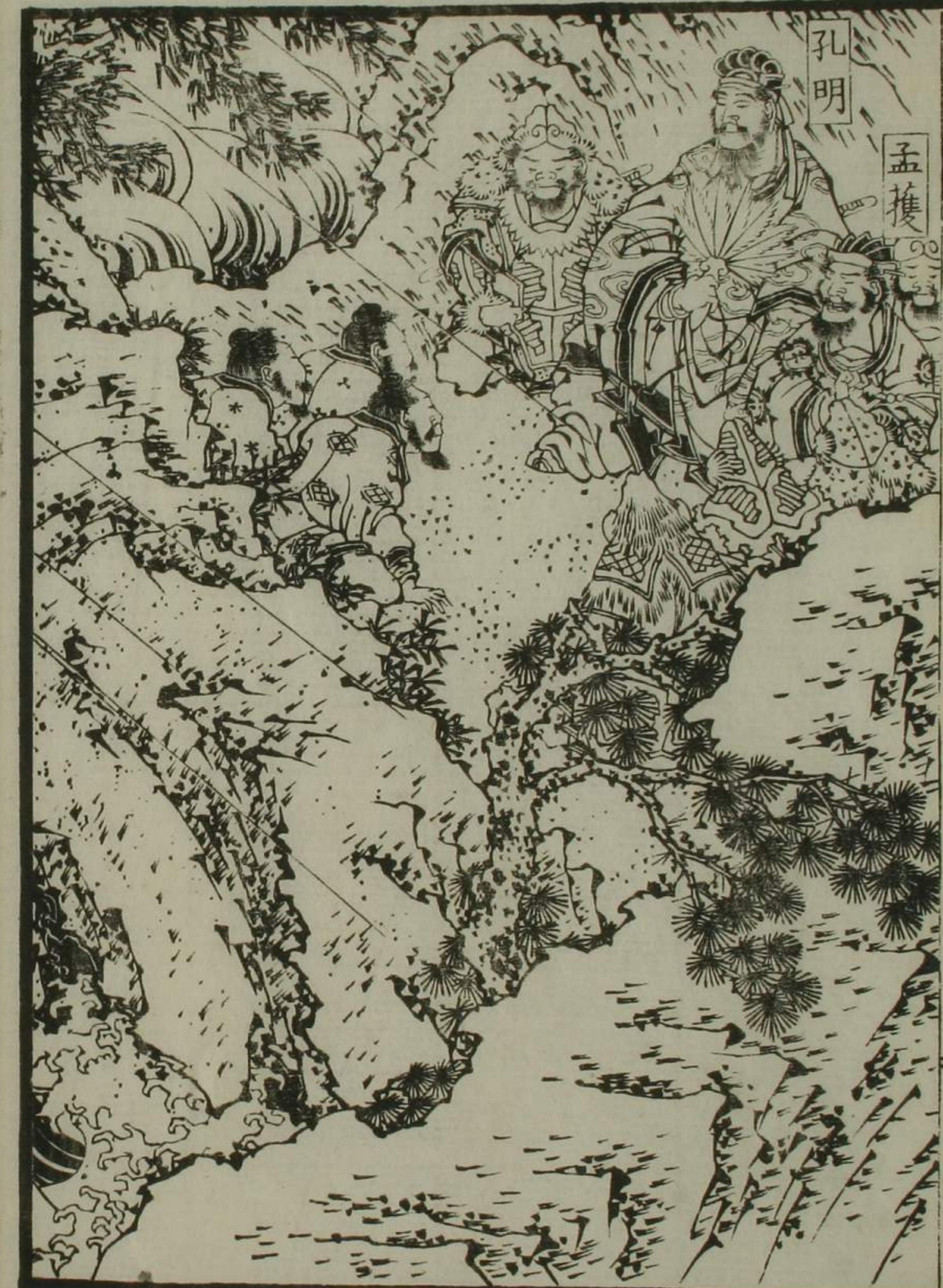
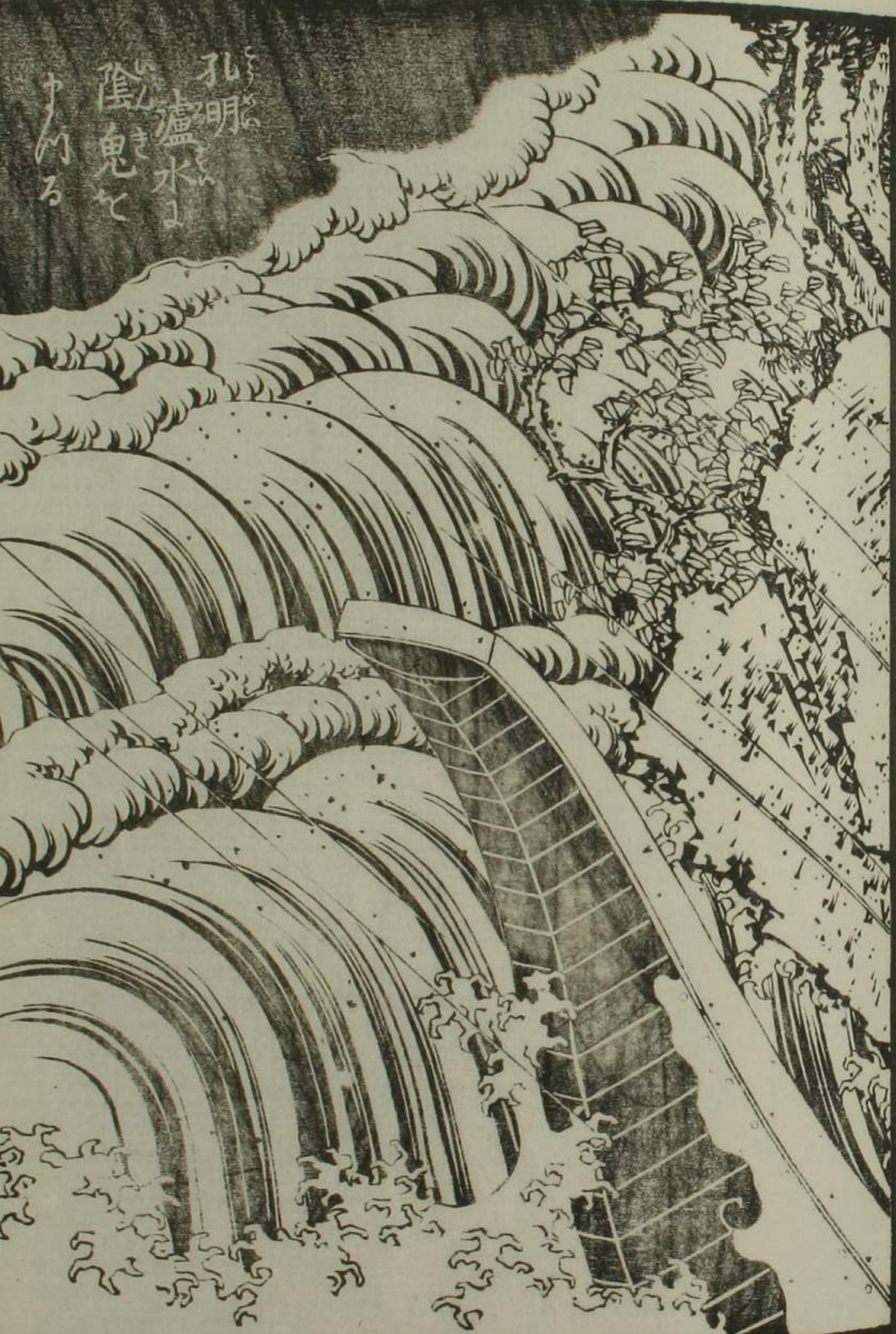
祭文曰く

維大漢建興三年秋九月一日。武鄉侯領益州牧巫相諸葛亮。謹陳祭儀。享於故祀王事。蜀中將校本土神祇及蠻夷亡者。陰魂曰。昨自遠方侵境。異俗起兵。縱萬蠻尾以真妖恣狼心而逞亂。且我大蜀皇帝威勝五霸。明繼三白王。定乾坤於戰場之中。立三社稷於于戈之内。自蠻夷固窮天道來叩。皇風。吾奏君王。精三軍。暫別龍庭。諸公祖錢棄六親。

遠辭國家於是問罪南蠻莫不逢山開路息浪為橋大
舉貔貅將除蠻蠻大軍雲集狂寇永消絕聞破竹之聲
便是失猿之物但士卒兒郎盡是九州豪傑將校官僚
皆為四海英雄習武從戎授明事主莫不同伸三令共展
七擒齊堅奉國之誠並是忠君之志何期汝等偶失兵
機緣落奸計或流矢所中冤掩泉墓或鎗劍所傷魄歸
長夜志堅忠孝一命終於刀斧之前正直奉公骸棄塵埃
之內生則有勇死且成名令則凱歌欲還獻俘將及汝小
英靈尚在祚禱必聞隨我旌旗逐我部曲同回上國各
認本鄉受骨肉之蒸嘗領妻子之祭祀莫作他鄉之鬼
徒為異國之魂當念姻親泣哭於朝昏子女號陶於旦暮

祭文謡了可悲孔明声咲咲哀哭痛切切已
絶俸祿用茲酬答以慰汝心父子傳孫名題蜀史今則聊
表丹誠一陳其祭祀各領酒食共享一餐依此靈旛隨我
飯囂嗚呼哀哉伏惟尚饋食

吾奏皇帝使宗室等各家尺疋霑恩露千年精縫衣糧月々不
絕俸祿用茲酬答以慰汝心父子傳孫名題蜀史今則聊
表丹誠一陳其祭祀各領酒食共享一餐依此靈旛隨我
饭囂嗚呼哀哉伏惟尚饋食



ら志ひりとあつれと云けり。孟獲持襍さくと、あとより南蛮國
回りけり。孔明兵けいを率さるて已いニ成な都と入いけり。後主こうしゆ劉禪りゅうぜん
駕え召めざれ。行ゆ三十里さんり止まく。迎むかへり。路じ傍わきに立たて父ちち事ことる者もの
どと敬けいひひ。孔明車くるまを下おとび下お地じ。拜ひ伏ふく。臣おの速はやう。蛮ばん
方ほうを平ひらると。克かつを。主ぬし上の宸襟しんきんを安やすらげし。むと云いけり。後
主こうしゆを起あそべ。車くるまを並ならべて都みやこを回まわり。太平の酒筵しゅぎんを設おきく。三軍
を勞なぐひす。南蛮なんばんより貢さしだを捧ささげ。來きり服はきをす。一百余よ不
足あらず。孔明又討う死しをくらす。子孫ししゆを尋たずて。一ひとあく思賞おもいわらひ
を施ほどく。されば蜀中しょくちゆうの内うち治はらり。年豐とよ。人ひと悦え。万安寧まんやす。主ぬしを
らまらまとひふとあつりけ。魏ゑいの曹丕そうひ。魏氏ゑいしの女めのこと
夫人ふじんと傾國けいこくの色いろ世よ。勝まさたと。其寵愛くわいあいをいたす。魏夫人ゑいふじん

中山無極ちうざんむごくの人ひと。上蔡じょうさいの令れい甄逸しんいつが女めのこ。一旦袁紹いんとうが二男にわい袁
熙いが妻めのこ。とありける。曹丕そうひが夫人ふじん。とあり。男子むすめを產うぶり。と。と
曹肅そうじき字ひ元仲げんちゆう。とい。幼少うちう。聰明ちゆうめい。と。けり。曹丕そうひ。と。あ
あり。と。愛あい。と。後ご。安平廣宗あんぺいこうしゆの郭永くわいえい。とい。よ。す。の。一人ひとりの女めのこ。あり。顔
色殊いろこと。美うりけ。郭永くわいえいは。孫むすめ。と。女めのこ。を。あ。ち。女めのこ中の王おう
とり。入り。もう。と。う。と。世よの。人ひと。女王おうじょ。と。号くわい。を。曹丕そうひ。と。名なまを。迎むかて。貴
妃ひ。と。寵愛くわいあい。又。甄皇后しんこうじゆが。上う。と。坐すわ。甄皇后しんこうじゆの。色いろ衰あせ。寵くわい休きゆ。と。あ。り。正官せいかんたらん。と。計かり。曹丕そうひが。辛臣きんじん。張龍ぢうりゆう。とい。よ。の。語ご。あ
る。と。を。曹丕そうひ。疾やまい。と。伏ふ。と。居間ゐまの。迎むかす。坐すわたり。と
沙汰さわり。と。桐きりの木き。と。作つく。と。人形ひとがた。と。取と。坐すわり。と。の。上う。と。何なん。の。年とし。

天子と此の如く地を埋むべしと書たるを。曹丕又せけヨバ曹丕文
ニ怒り。遂ニ甄皇后を勤殺し。郭貴妃を皇后とす。大司馬
依て曹叡へ郭皇后又難られ。年十五より人で克。于馬の術
ニ達。一けヨバ。その年の二月。曹丕。曹叡を伴ひて獵ニ上山
間す。妻鹿の子を連れ家を追逐す。曹丕一矢ニ妻鹿を射
殺。一けヨバ。子鹿もされて曹叡。馬の下ニ逃入り。曹丕一矢を
あけ。汝もよして。子の子鹿を射ざり。と云けヨバ。曹叡馬上
ニテ涙をあび。父君ひよ鹿の母と射殺し。又。争ふ。又
子の子を殺ち。忍びんと云けヨバ。曹丕。うそ。地ニ投奔する。
子の真。ニ仁德の主あり。と云。卒。曹叡。齊公ニ封。後
又入平原王ニ封。夏五月。曹丕傷寒。冬の病を受て。かろぐの
入。

医薦志。已ニ危くあり。けヨバ。嘉福殿。中軍大將軍
曹真。鎮軍大將軍陳群。撫軍大將軍司馬懿。三人を。よび寄
國家の大事。と。托す。太子曹叡。と。よび。今。朕。病。を。よ。重い。
あの子。年幼少しくて。天下を治ると。克。汝。三人。よく心を尽す。
あと。と。輔け。朕。がん。よ。背。と。あ。れ。と。云。け。ヨ。バ。三人。よ。答。て。曰。く。
陛下。あ。ゆ。人。よ。浩。る。と。ぞ。宣。ぞ。臣。不。征。不。力。と。忠。と。致
き。又。が。う。ら。崩。る。あれ。不。祥。の。兆。ち。う。朕。も。よ。す。て。死。せ。ん。と。そ
し。千。秋。万。歳。を。祝。ち。べ。曹。丕。が。白。く。今。年。許。昌。の。城。門。ゆ。く
志。家。と。見。又。征。東。大。將。軍。曹。休。き。たり。内。入。り。て。病。を。問。け。ヨ。曹
丕。喜。んで。曰。く。卿。六。四。人。が。も。あ。あ。と。國。家。柱。石。の。臣。ち。う。朕。死。と
とも。ち。ん。の。恨。う。あ。う。よ。く。力。を。尽。し。と。太。子。を。佐。よ。と。云。と。そ。

忽然と一命終り。時年四十歳。とよりて曹真、陳群、司馬懿、曹休、哀をあげ。喪を斂して、やがて曹叡を大魏皇帝とあざげ。父の曹丕を文帝と謚し。母の甄氏を文昭皇后と謚し。鍾繇を太傅と。曹真と大將軍と。曹休を大司馬と。華歆を太尉と。王朗を司徒と。陳群を司空と。司馬懿を驃騎將軍と。余乃文官武将、尽く官を進て。又ト大赦を行ひける。とたゞ雍涼の州郡と守る人をうけられ。司馬懿表を上りて。西涼の刀兵郡を守らんと。清魏主曹叡をとよ從ぐ。司馬懿を雍涼等處の兵馬提督と。又ひしに司馬懿をあらへ。西涼又下りける。蜀の細作もととぞて。孔明又告けり。孔明大もどろひて曰く。曹丕を死して。曹叡ヒ國の主と。是ホの事。

掛るまでも。河内温人司馬懿字は仲達。とりゆかの。當世ノ英雄。今レ雍涼の兵と司らへ。後うちらぞ蜀の患とあらん。いて。兵を起して。早々討破。參軍馬稷曰く。今亟相南蛮ヒ平げ。回りを入馬もとぐく。疲れて。物の用も立。然ス。遙くと兵を起して。魏を伐りへん。甚どり。宜しく。某河の計あり。曹叡を敗れて。もと司馬懿を殺さまやんと。ひしげり。孔明喜んで。其計と問

孔明初上出師表

馬稷計と献じて曰く。司馬懿々々。魏ニ事とヤセども。曹叡法林ニアリ。疑ふ。ひそひそ洛陽鄴城の邊の人を遣し。司馬懿謀反の企ありと沙汰させ。廻文を作りて。諸方々分ちつくり。さば。

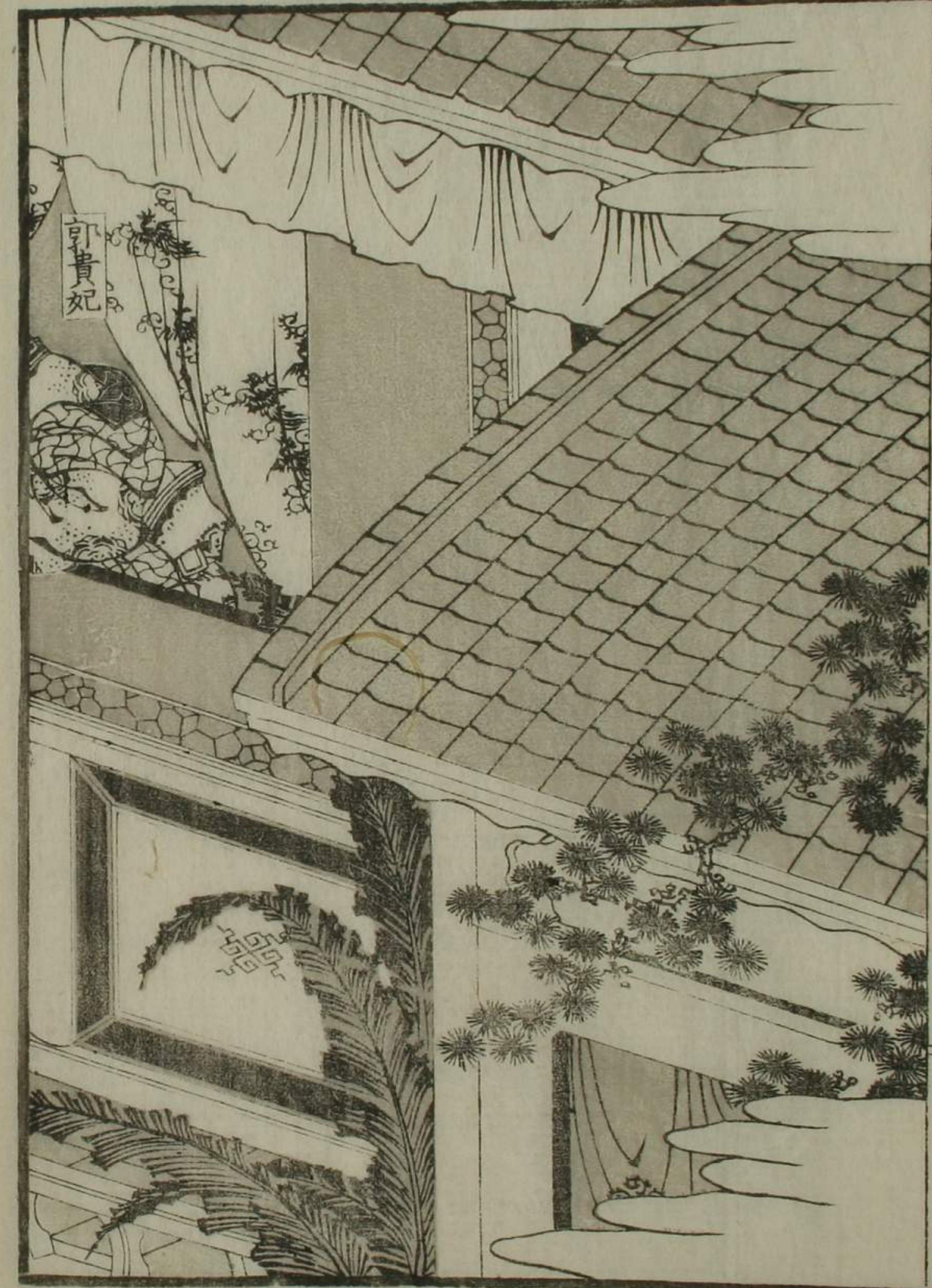
曹叡さうえいより疑うなづくをあしらへ必うがたを司馬懿そまいでを殺おとし。孔明こうめい志のぞひ
一ひとと喜よろこびひ密ひそかみ人ひとを遣おとし。此計かぎを行はせけよ。案あわせのどく鄴城ばくじやう乃
門もんを守まつる。彼廻文ののきぶんを見て。曹叡さうえい又また獻ささぐを。曹叡さうえい色いろを。
志のぞひこ開ひらきうらう。其文そのふみ曰いく。

驃騎ひょうき大將軍總領雍涼等處兵馬事司馬懿そまいで旌けい以信義
布告天下。昔太祖武皇帝創立皇基。本欲立陳思王子。
建為社稷。上不幸。奸讒交集。歲久。潛龍今。皇孫曹叡
素無德行。七女自居尊有。負太祖之遺意。今吾應天順人
以慰萬民。之望克日。真師到閔。比日早。卽命新君。如不
願者當滅九族。先此告聞。相宜知悉。

曹叡さうえいあると。セレムの内うちふか。疑うなづく。群臣ぐんじんを集あつめて評議ひやぎ。けれ
べ。大尉華歆かほが。トナリ。司馬懿そまいで。又また。表あひらうを上あがり。雍涼おうりょうを守まつん
と。孫まごのまごへ。此企このきも。よ。のの。と。昔太祖武帝そくとうそく。は。孫まご。某も。ホ。向
て。司馬懿そまいで。膺鳥おのとりのの。と。く。又また。視のぞ。狼おおかみのの。と。く。顧のぞ。る。う。あ。し。是これ。よ
軍兵ぐんべいと。司そどと志む。り。と。あ。れ。若わか。兵權ひんぜん付つ。バ。國家こっかの禍まことにを。あ。ナ。と
一ひとと宣のこへ。リ。今いま。謀反ぼひんと。で。ユ。露あきら。と。たり。も。每まい。征伐せいば。あ。下さ。ト。王朗おうらう
が。曰いく。司馬懿そまいで。深ふかく。韜畧とうりやくと。明あきらか。て。善よ。兵機ひきと。曉さと。る。は。ち。す
詔せふ。下さ。ト。兵ひを。ま。承うけき。あ。川かわ。ら。自じら。征伐せいば。せん。と。い。ひ。け。よ。バ。列坐
のの中うち。よ。大將軍曹真さうしん。と。く。も。出だ。て。曰いく。諸公しょくこうの。意見いんげん。も。う。意い。と。相
違たが。う。文帝ぶんてい崩御ぼうぎょの時とき。と。き。の。ぞ。臨ひま。ん。で。臣しん。六。四。人じん。を。や。一。寄よ。て。孤こ。と。托
一ひと。ひ。ト。ひ。ト。司馬懿そまいで。謀反ぼひんの。ん。あ。き。と。よ。く。知し。せ。り。と。ゆ。き。

志ある。又輕々兵を起して征伐せば彼已と得たゞく。
あらがうら謀反をあそべ。况や吳蜀の敵はまど底、べき間
謀の計をもつて君臣の間を擾乱せしらすの虚々乘て討を
計るとあそべ。何のやそどめたらるりもちく。容易々兵を起
くよ。甚りて然ふぞうらき。魏主曹叡が曰く。司馬懿謀
反は実ある。よのまく。又閣へ大ちる禍とあさん。曹真が曰く。
也御心安らぎ。安邑の高祖の雲夢。游びゆ。例う
効て陛下もがうら安邑へ行幸。一夕。司馬懿が御迎え生る
と。その気色を伺ひて車の前まで生。投り。曹叡もと。従
がひ。曹真と大將として十万の勢を従へ自ら安邑へぞ。おもむ
きける。司馬懿へやる。ありと。要もあらざ。天子行幸を

ると。ひととやみて。己が勢の程をあらしめんと。ちひひけと。華やく
兵を整へ。後方騎を引て生ひり。近臣もと。と。天子。司馬
懿がおもと。と。深きけり。曹叡。色を失ひ。曹休。命じて指
か。ひ。曹休。承り。兵を備へ。生けり。司馬懿。と。と。と。
御幸。ちりと。と。馬を下りて。地を伏と。曹休。と。と。生く
大音あげ。仲達。汝の先帝の孤をれど。遺命を受て。今あよ
ゆ。謀反をもと。よ。りけり。司馬懿。大。驚。遍体。汗を
あび。あらへ。ひうち。故ゆて。ひと。問。曹休。委。の。故。語
る。司馬懿。が。曰く。あらひ。吳蜀間。謀の計。と。君臣の間を離れて
害。虛。の。て。討。ん。とも。う。の。ち。某天子。見。く。天の由を
奏。と。と。と。兵を。尽。く。退。け。車の。前。拝。伏。く。族。を。あ。び。て



曰く。臣先帝の孤と托すの命と受て。安んじ野心を放さむ。き。
すと。あ。吳蜀の計。間諜をりて。君臣と乱んと。願く
詔勅を受くま。蜀を打破り。次々吳を滅ぼく。國の恩を報き
べ。魏主曹叡。あがもん。穢うあらざ。如何せんと案。煩ひけれ
ば。華歆が曰く。りき。兵馬と司じら志も。うちを。官ヒ剥。故郷
追回。一々。あ。簾の文帝の周勃。又報。ドリ。例。曹休。又命。ドリ。
乞えよ。司馬懿が官職を削て。故郷へ回る。曹休。又命。ドリ。
雍涼の軍馬と司じら。蜀の細作。よどとやめて。その赴きと
往進志け。孔明。うき。あく。喜び。よどと。舞を伐人とも。も
へども。司馬懿が雍涼の勢と司じると。拴うち。ふり。い。又
きで。又計。ヒ。退けたり。と。あ。人の憂うあらんと。次の日

文曰く
後主劉禪。朝を設く。ベ孔明。列を出。出師の表。奉る。其

先帝創業未半。而中道崩殂。今天下三分。益州疲敝。此
誠危急存亡之秋也。然侍衛之臣。不辭於内。忠志之士。
忘身於外者。盖追先帝之殊遇。欲報之於陛下也。誠
宜開張聖聽。以廣先帝遺德。恢弘志士之氣。不宜妄
自菲薄。引喻失義。以塞忠諫之路也。宮中府中。俱為
一体。陟黜臧否。不宜異同。若有作奸犯科。及為忠
善者。宜付有司。論其刑賞。以昭陛下平明之治。不宜偏
私。使内外異法也。侍中侍郎郭攸之。費禕。董允等此
皆良实。志慮忠純。是以先帝簡拔以遺陛下。愚以為

宮中之事々無大小悉以咨之然後施行必能裨補闕漏有所廣益將軍向寵性行淑均曉暢軍事試用於昔日先帝稱之曰能是以衆議舉寵為督愚以為宮中之事事無大小悉以咨之必能使行陣和睦優劣得所親賢臣遠小人此先漢所以興隆也親小人遠賢臣此後漢所以傾頽也先帝在時每與臣論此事未嘗不嘆息痛恨於桓靈也侍中尚書長史參軍此必貞亮死節之臣也陛下親之則漢室之隆可記日而待也臣本布衣躬耕南陽苟全性命於亂世不求聞達外諸侯先帝不以臣鄙猥自枉屈三顧臣於草廬之中諮臣以當世之事由是感激許先帝以驅馳後值

傾覆受任於敗軍之際奉命於危難之間爾來二十有一年矣先帝知臣謹慎故臨崩寄臣以大事也受命以來夙夜憂患夙夜有枕不寐以傷先帝之明故五月渡瀘深入不毛今南方已定兵甲已足當獎率三軍北定中原庶竭弩鈍攘除奸凶以復真蘄室還於舊都此臣所以報之禪尤之任也願陛下託臣以斟酌損益進盈忠言則攸臣之罪以告先帝之靈責攸之禪尤之外口以彰其慢陛下亦宜自憲以諮詢善道察納雅言深追先帝遺詔臣不勝受恩感激今當遠離臨表涕泣不知所云謹

表

後主劉禪とて。父南蛮を平て。とくに艱難を歩り。そぞやて。國々回りて。坐ひまご安らぎる。又魏を征伐すべ。おそらく。神思を勞せんと。宣へ。孔明が曰く。臣先帝の魂を托する。命を受て。晝夜んと。安んぜど。今南蛮を平げて。國々回り。そで。一年。又よびぬ。軍馬よく。整ひ。器械も。備え。此と。來て中原を攻取さんを。何の日。期。一ヤさん。と。列坐の中。太史。熊周。坐て。曰く。臣。天文。と。方。旺。氣。盛。星の光。ましく。明。魏は。まだ。討へ。うらを。丞相。へ。深く。天文。を。知り。何とも。強く。事。あし。く。ぞ。孔明。が。曰く。天道の理。へ。变易。常あら。を。何ぞ。あり。拘。けんや。と。今。軍馬。と。漢中。と。ど。敵の虚実。を。伺て。時。を。待て。攻。か。と。て。卒。よ。諸人の諫。と。用ひ。を。

郭攸之。董允。費禕。を侍中として。宮中の事。を。も。治させ。向。竈と大將として。御林の兵。を。司。せ。ら。也。蔣琬。と。參軍。と。張裔。を長史。と。して。丞相の事。を行へ。杜瓊。と。陳議大夫。と。杜微。楊洪。を。尚書。と。孟光。來敏。を。祭酒。と。尹默。李譙。を。博士。と。郤正。費詩。を。秘書。と。熊周。と。太史。と。内外の文官。武将。百余。人。を。どぞ。蜀中の事。を。掌。る。孔明。丞相府。又。回て。諸大將。を。集む。す。人。く。よ。

前督部鎮北將軍領丞相司馬涼。又刺史都亭侯魏延

前軍都督領扶風太守張翼

牙門將裨將軍王平

後軍領兵使安漢將軍領建寧太守李恢

副將軍定遠將軍領漢中太守呂義

勇管運糧左軍領兵使平北將軍陳倉侯馬休

副將飛衛將軍廖化

右軍領兵使奮威將軍博陽亭侯馬忠

撫戎將軍閔內侯張嶷

行中軍師車騎大將軍都鄉侯劉琰

中將軍揚武將軍鄧芝

前將軍都亭侯袁𬘭

中參軍安遠將軍馬謖

前將軍高陽侯吳懿

右將軍玄都侯高翔

後將軍安樂侯吳班

領長史綏軍將軍楊儀

前將軍征南將軍��巴

前護軍偏將軍漢成亭侯許允

左護軍篤信中郎將丁咸

右護軍偏將軍��敏

後護軍興軍中郎將官雝

行參軍昭武中郎將胡靖

行參軍鍊義將軍門晏

行參軍裨將軍爨習

武畧中郎將杜祺

綏戎都尉盛牧

從事武畧中郎將樊岐

典軍書記樊建

巫相令史董厥

帳前左護衛使龍驤將軍閔與

右護衛使虎翼將軍張苞

此ホセ宗徒の者として用意て又備りけれ。後主劉禪孔明を平北大都督巫相武鄉侯領益州牧又封爵内外の事とぞ攝どもし。孔明をあち檄文を白帝城へ遣し。李嚴ホ又川口を守りて吳の圍の押なしし。建興五年春三月丙寅乃

日を就んで打起けれ。忽ち一人の老將を出某(今年老たり)とやせども。あれ廣頗が勇馬援が力ア何ゆえ。と用ひきぬぞとよづる諸人よりぞられ。乃ち常山の趙雲。孔明曰く。より南亦虫ヒ平げて都ニ回て後馬援病ヒ受て亡び。ヨリ甚どあひと惜。右の臂ヒ失ひ。ア。今將軍年をでよりて。方一失あると。一世の英名ヒ。先帝ニ從ひて。已來陣ニ臨んで退くことなく敵も。先帝ニ從ひて。大丈夫の士へ戦場ニ死を。る。その間。赤干と。某。此度弟一番の先手ヒ。敵の陣ヒ打破。孔明再三ヒ。しかばん志たゞき。

趙雲



趙雲一第
韓德と突殺す

韓德



趙雲下りて若某より曰。先鋒と志りをもんを只今首と
刎て亡びる。孔明曰く。御辺志ひく。望りゆく。一人の副將を
付べ。とをより列坐の中より。色をあげ某不肖よりども。後
づる者將軍と先手々進んとよぶるわゆ。故。今と
それば中監軍楊武。將軍鄧芝。孔明志うぐいと喜
び五千の精兵を分て。戰將十人を遣す。趙雲。鄧芝。前
部大先鋒ヒ。大軍をで。都を出け。後主劉禪。百官
と伴ひ北門の外十里送りゆ。孔明が下ろ本百姓路を
生む。草食蠶盤と玉の師と勞ふ。大軍の通る。秋毫
も犯さとある。漢中と望んで進發を。去程。卓馬急を告
て。孔明攻上ると。ひらきけり。魏主曹叡りゆて乃外。おど

ろき。群臣であひゆて問へ曰く。今孔明三十万騎。攻上。雍を
大將として拒べき。とた二人ともて生て。曰く。某が父漢中の戦
ふ計。齒を切るの恨ありと。ヤセども。今よあひと報なると
あひて。今四の勢壘を犯す。臣。孫がから打向ひ。関西の兵
を催して。上ハ圍の為ニ力と尽し。下ハ父の為ニ仇と報す。諸
人あひと見ゆ。夏侯淵。字へ子休。ちう。幼少。夏侯惇。字へ一漢中乃
合戦。又父夏侯淵蜀の大将黄忠。又計。ひるべ。曹掾。あれをあ
それ。乃ち姫と。清河公主を娶らじ。ひるべ。諸人憲
尊ひとり。天性慄。をして。慄。杏。し。未と一度も。戦場へ臨
まど。魏主曹叡。その望。任せ。大都督。封つけ。司徒王朗。諫

やて曰く。旨矣。駒馬もとす。軍も駢を。今初めて大軍を司ども。そのみ宜き。當らむ。況んや孔明へ尋。常の敵もあらむ。別よ大將を。折しで。指ぎ。又夏侯楙怒。以て。やひり。汝へ孔明と。ひそ。又内通のふある。我いとけ。をきより。父。よ憲たゞ。兵法を。學び。通ぜ。などといよ。若孔明を。生。捉ぢん。誓て。さの。不。再び。久らじ。と。よび。りけ。立べ。重。稱て。言。と。生。と。力。の。は。夏侯楙を。あ。と。ち都を。立て。長安。下。着。し。河西の軍馬。二。十。方。騎。とも。あら。孔明。破。り。ん。と。備。を。ち。く。待。蒐。たり。

趙雲大破魏兵

とた。又蜀の建興五年夏四月孔明三十力の勢を予て已又汚陽
又著ナリ。又馬超が墳ありけり。バ馬岱又命。トモ。祭をあさり。

けろ。早馬もせ來り。魏主曹叡。とで。又夏侯楙といふやのと大
將に。関西の兵をあらわす。長安を出て。拒んとを。告げ。魏
延をとも出て。曰く。夏侯楙へ駄馬都尉。封せられ。乃ち。膏梁の
子弟。懦弱。みて。計。し。征ぐるも。某。五千余騎。を。借。直。
褒中。の。路。秦嶺。を。越。子午谷。も。生。て。北。む。ひ。十日。の。内。
長安。到。るべ。復。侯楙。も。よ。ど。某。が。俄。も。生。た。る。とき。六
月。うち。も。横門邸閣。を。埋。ひ。走。るべ。志。り。承。と。免。へ。敵。の。と。て
た。る。兵糧。を。奪。ひ。某。東。す。攻。か。り。丞相。大軍。と。引。て。斜谷。す
も。き。も。り。咸陽。す。西。一鼓。と。攻。取。べ。あり。と。あ。ち。萬全。の
計。ち。り。孔明。あ。ざ。笑。り。て。曰。く。あ。と。方。全。の。計。あ。ら。を。汝。を。あ。ざ
敵。の。計。あ。き。を。あ。ざ。む。敵。は。山際。の。切。所。を。兵。を。分。り。て。塞。あ。

三千余騎。一人も生て回らぬあり。此計をあひど
危一決して行ふとあひうつと。魏延曰く。亟相兵を率へて。
本道すうそもとへば敵も大軍であらわて。要害を拒ぐ。志をふ
とたへ徒ら人馬を損じて。何のとたゆ中原を平ぐべき孔
明曰く。もとと隴右より進へて。大ちる路をかり。法よりそ兵
を用ひよとたへ。豈勝どりよの理あらんやと。卒を魏延
計を用ひて。趙雲。鄧芝を命じて。兵をもくやむ。去程を魏
の都督。夏侯楙。長安をあひて。諸國の勢とあらひけり。不日
來り。從ふ勢三十万をもと。中を西涼の大將韓德とくよ
め。善太刀を斧て。使て。万夫不當の勇あり。西羌の兵八万余騎を
ひて。をせ来り。けり。夏侯楙をあひて。喜び。めいく恩賞をもとて

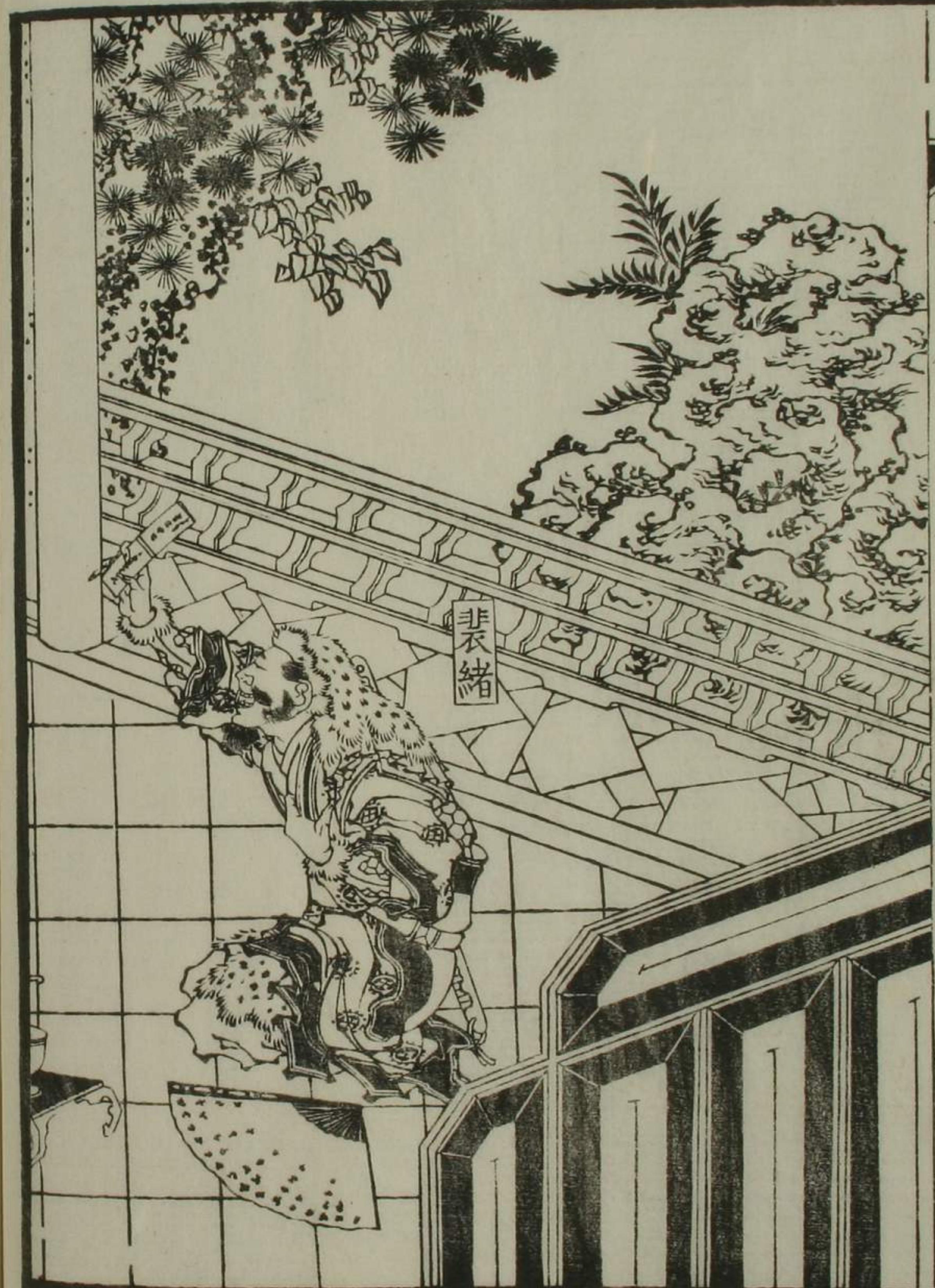
先手を備へ。韓德もと。韓瑛。韓瑤。韓瓊。韓琪とて四人の子
あり。ともに弓馬を達しく。力常人を超たり。けり。我を敵を
るものあらじと。かく。八万余騎を率へて。鳳鳴山を到り。
蜀の勢と出あひ互々陣を取て。四人の子を左右ニ立。丈音あ
げて。交圍の賊徒をもと。境を犯すとよび。りけり。趙雲
鎧をひねりて。突て蒐る。韓德。長男韓瑛。馬を上へて。だ
く三合うち。ざれ。趙雲。云。殺さなければ。次男韓瑤。刀
を回して。斬。や。蒐る。趙雲。虎威を逞さし。勇を振て。戦ひけ
れ。や。韓瑛。もと。危くそくける。三男韓瓊。方天戟をもいて
討へ。や。三人ともまんで攻けども。趙雲をよし。鎧をも
ださむ。火をもじして。戦ひ。四男韓琪。もと。見え。体を兩口

の日月刀を打振三方より攻けり。とども趙雲あはれに色あく戦ひけるが爲めかくありて。韓琪、鎧よ中なかにて馬まより下落。時とき又軍中より後うしろの勢せいうちりけり。とば。趙雲馬まを打たたて引ひき回まわすと。韓瓊追おうけおちおととて矢やを放はちける。繰くわけて三條まで皆鎗やりと打落さおちし。戈ごを揮かて追おくる。趙雲まづまづ眼まなこまれてそく。鎧よくありけり。とば。趙雲馬まを打たたて引ひき回まわして兵ひと射ねる。その矢や韓瓊かんきゆう面おもてより落おちて死死けれ。韓瓊かんきゆう追おうけお一いつ刀とうを斬き人ひととそらそらと。趙雲身みとそぞら鎧やりをあげて。韓瓊かんきゆうを引ひきほぐ。生なま取とて陣じん中なかとと回まわり。又馬まを乘替のりかわて出でけで。韓德四人の子こを。目の前まへとと封くわとと膽いだを冷ひして。怕ひととととあき。走はりて陣じん中なかとと入いる。西京せいきやうの勢せいから徐おゆく趙雲きやうが名なを。まづありたり。今いまの英えい勇ゆうと

見て。一人も生いるいのちち。戦たたひひして大おはは乱まつる。趙雲きやう只ただ一ひと騎き。四方八面かずかんととうけく破はり。人ひとあきふふとと行ゆががととく。あくくけけとと不ふ鄙び。芝しば兵ひををそそそそ掩殺えんせつととる。魏ゑいの勢せいさんさんぐぐとと封くわとと太たい將じょう韓かん德とくも甲かぶととて。馬まと失うまま歩立ほりたととうりて。命いのちを助する見苦みにくりりけるわわききぬぬ。趙雲きやう兵ひを收めめて陣じん中なかとと回まわり。敵てきととでで七しち旬じゅんとと賀がして。曰いく。某もし今日きのう將じょう軍ぐんの振舞ふんまいをを見る。敵てきととでで七しち旬じゅんとと賀がして。曰いく。某もし今日きのう精神じみつあら昔むかふうももううを。四よの大お將じょうを討う取とりととと誠まこと世よ例たとええままききりりとと。趙雲きやうが曰いく。亟せき相あわままとと。老お人ひとももううヒヒて用もちひひりりとと。我われこののももうう功ごととああくくままんんとと。韓かん琪きを生い捕つかて孔こう明めいとと捷きつ軍ぐんを報ほうととけけ。魏ゑいの都督とくしゆ夏侯かとう掾いんへへ韓かん德とくが破はれたる由ゆととて。自じらら兵ひを引ひて出でけけとと。趙雲きやう

もとがうち千余騎を率いて鳳鳴山に陣を張る。とたゞ夏
侯楙志ろき馬に乗て金の盤といふ旗の下に立て。趙雲
が往來するを望む。自ら生て戦へんと志けり。後又アリケ
る韓德をとも生て曰く。よし四人の子で趙雲を殺さむなり。你
がのくちよ。おの恨を散せんとて。大うちの斧を打振馬をとぶべく。
討く。さう趙雲鎧をまわぐ。生むく。戦ひ三合うちふか。又
韓德を一鎗ス突死。又夏侯楙を討てり。夏侯楙。それく
本陣へ逃入けり。鄧芝兵を駆て掩殺を。魏の勢討
き。その役をうちだ。十里をびひて陣を取。夏侯楙夜もを
がら敵大将をあらわす。我々々。趙雲が名をきけり。今日年老
たりといども英雄あたるものは。昔當陽の長坂にて比類

あき手柄をあらはなりとやぶ。今あらひやうれどり。如何をんき
と問けれど。参軍程武へ程昱を子す。進生をやけろ。某
推量を。趙雲勇ありと。トサども計を。まじ。惜しきよ足
ぬ敵あり。明日兵をそそ打生す。赤り負て敵をあざむき。
伏兵を。四方す。取囲み。都督を。山上す。下知
り。勿心。生捉せん。夏侯楙を。志と。神武將軍
董禧。三万余騎を付て。左を。伏せ。征西將軍薛則。三万余
騎を付て。右を。伏せ。次の日大軍を。うち。金である。鼓を。打く。推
めたり。趙雲敵のきたるを。一陣を。馬を。生し。これ。鄧芝諫て
曰く。昨夜魏の兵。あら。討。今日又よせ来へ。うち。おの計
あらん。老將軍よく慎み。趙雲が曰く。量。乳臭の小兒あ



人ぞ言ふならんや。我今日夏侯楙を生捉へ。とれ。魏の陣より。うちの旗とはあらず。夏侯楙。諸大將を引て馬を生を銷雲鎗をひねりて蒐けり。魏の偏將軍潘遂といふを。二三合鋒をすくと。そんぐ遡走る。趙雲追うけて進け。又魏の陣より大將八人ぬまほどを、射て生さし戦にく掛け。ベ趙雲勢ひの内全集でせら蒐る。夏侯楙兵を引てそくひく走り。魏の陣より大將八人ぬまほどを、喊を作りて進る。そく忽ち鼓の音ひどい。魏の兵四方より討りて生なり。鄧芝大ふどろき。急よき。アザクンとまれば左。又董禧。ミギよ薛則。引ほんじ。一騎もあぬじと。そんぐ又攻戦。鄧芝小勢みて圍て生るとあつた。趙雲もそくひく深入へと。名備ら

れ東を打西を突てひよ生んとぞれども敵の囲ゆく重り。矢
を射ると雨のどくよと手勢よりうよ千余騎々討ふされ
人馬はれで戦ふと克を。夏侯楙の山の頂上のあひて味方
と下知し。旗を持て兵を使ひ。趙雲東を走り。旗をかむと
東をは。魏の勢をあ東を聞む。北走れバ。旗をかむと西
をは。魏の勢又西を聞む。北走りて趙雲卒よ生る。上克
を。山の上へ上らんとされば大木大石。雨の降りどくよ。投下と
蜀の勢もとく。傷を被り。辰の刻より酉の下まで聞を告
とせ得也。趙雲も馬より下て息を継。月の明あつて待て。一
方を討破らんと侍る。東の山乃端。又月をほ揚りければ
魏の勢志だひよ近付。四方よ火を付く。喊の音天。地を崩す。

石を投げ、矢を放りと兩よりも志げく。趙雲もや、降奉せよとよびりけり。趙雲怒りて、歎破らんとぞり。十方より射蒐る矢、蜀の兵ともむとあたはざ。趙雲天を仰いで、又笑ま。耄耋服せを。今ちよて討死せんうといふ。忽ち東北の角より、喊をどりと造まく。前廻したる魏の勢を、んぐよ逃走る。とて、三彪の軍馬殺到し。真先よとく、やゑ大將吉ろき袍、銀の甲を被る。丈八の弓を横たへて手す。一の首を提げこり。趙雲ありとぞり。虎翼將軍張苞あり。某丞相の命と受、老將軍を援けん為。五千余騎よて来る。又、魏の大將薛則、又、坐合首を取て來り。とやも、趙雲も喜び、兵を引いて敵を追ひとぞり。又、西北の方より一手

の勢討て出。魏の勢を四角八方に蒐ちらむ。趙雲もよとぞり。真先うち、大將右の手、青竜刀を提げ、左の手、首をも。のとよとをあら。龍驤將軍閻真、某丞相の命と受く。老將軍を援ん為。五千余騎を引て來る。又、今魏の大將董禧とよ者と戰ひ。首を取て來たりとて、趙雲大によろまび。二將軍とりよ希代の功を立す。もんぞ勢ひよ來て、夏侯操を生取り。めぞとひけり。閻真、張苞兵を引て追蒐る。趙雲左右を顧く曰く。かとホ二人は、我たちよと姪のじ。今日敵の大將を討て、大ちよ功をあせり。もとよとあれ。國家の上将朝廷の舊臣あり。と却て、おの小兒よよべを。よと一方。老の命をとて。先帝の御恩を報をとて。兵を歎て追逼

關真張苞と一手又あひて。落行魏の勢力をあく追詰。や
あふあぎ伏せ。鄧芝も跡を続てもぬはと攻けよ。尾を
遍野よりたどり。血があがれて河の辺に。元來夏侯楙へ計
とちく。年若しく軍をあきどる。將あり。又軍の乱
たるをえく。一支部もさへを。手下の大將百余人を失ひ。南
安郡を望んで逃走り。城中に入りて命を扶りけり。魏國
の軍勢へと行方なく落失たり。

孔明智取三郡

夏侯楙も併び逃げて。南安郡の城を走りけり。趙雲。關
與張苞。鄧芝。息をも絶ぜず。追うけ四方を囲んで。とどく
十日のあいだ昼夜力を尽して攻けども城の構堅固に

て。あく落へとへとへざりけり。孔明も後備を所陽と
や。ひそり備て。陽平。又大むらに右備と石城を残し。とばくも
中軍の大將を引て。南安城を来りけり。趙雲。専らくじて
計を求む。孔明が曰く。とくに守ら城の体を伺。よ地僻
よ路險にて。きくよ。争せら。落をとほん。よと師を用ひ
と此城へ。限をうちを汝。ホ。今く此も聞べ。魏の勢必也。
器を分けて攻めよ。若じろよ敵ありて。漢中とおもてむ。悔る
とも及ぶは。鄧芝曰く。夏侯楙は魏の駒馬。ほまのへと生
れ。あは自余の大將百人より勝る。今このを追來り。争
棄て退くべき。攻せられて御覽。ひ孔明が曰く。よと。いわく
あり。そのをへ何の地へ。続きたる。知り。かのあり。答へ曰く。西の天水

郡又連り北へ安定郡又通。孔明が曰く。二郡の太守へいはる
人ぞ答て曰く天水郡の太守へ馬遵とト。安定郡の太守を
崔諒とヤセ。孔明もあち。魏延を呼んでそろそくと計
てさきやき。又閔真、張苞二人も計をもつて又物駒たるものと
使者も仕立よしくもあ計を授て。そのうち南安城を攻めり。柴
と積草をあ列せ。城をやき山朋さんといふ沙汰しけりと。夏侯
楙城中よりあひとてこてて大笑ひ嘲り。怡々氣色があうりけ
る。そのとた安定郡へ南安郡と北と隣て。太守崔諒城中あ
りける。蜀の大勢南安の城をとらまき。夏侯楙を攻ると文へ
けど。四千余騎の兵を調用心きびしく居ける。不ふ忽ち南乃
門を叩て一人の使者ひの急あひとよぐる。崔諒も詫き入て

その史を問へ答て曰く某へ夏侯楙駒馬の大將も裴緝とヤセ
よのちう。今復侯楙南安の城をありて。事をとでえ急あひ此
よれにて某を使じ。天水、安定の二郡も救と來や。ひ太守兵
を起して早く後攻へ。城中も火の手をあげて相圖を
あらせ内外す。蜀の兵を攻破。若救の兵おきてきたへ勿心
ち。又落成を。太守崔諒が曰く。夏侯駒馬の檄文もあき哉。
裴緝息をもほぎ。兵を虜め付たる書簡を生しけりと。崔諒
いのちと。夢すも志らざ。兵を調て殺んと。裴緝も馬を
りく。あとす。又天水郡へあゆむ。太守ともりて援の兵を起さ
志やんと。又城を坐て走りけり。後二日を過ぎて。一人馬をとて
をせまい。天水郡の太守は已。兵を引て。後攻をかりりうへ。よ

おへりけり。崔涼もととてやまと。諸將もあり。早人そやひとと先を
せられたり。急ぎ出よとて。馬ま車くるまある文官を残して。城を守ら
せ。南安郡みなみあんぐんをとめて。ひよの相圖あいづの火と。おぢて。遙はる火の光
えにけり。ばく馬ばくばくで。ややて已い。又五十里を。かくけろ
と。俄々喊えいえんの声こゑ。天あま地じを動うきけり。崔涼さいりょう。どろひく。さとく。
あよひと問たず。又早馬はやま。告こて曰いく。前より蜀の大將閻寧えんねい。兵へを
て路じをさへぎり。後より張苞ちやうほう。大勢だいせい。又攻こうつる。崔涼さいりょう。膽はづきを冷
一度いちどを失うしなく。立てけり。手下の兵ひ。まど戦たたかひ。命めいを奪
ぐ。又逃走とうそうる。崔涼さいりょう。力ちから。又びる。百余騎よしを志めざと。命めいを奪
て敵てきの圍いを切きぬけ。小路こうじをまわり。安定の城じょうじやくへ回まわらんとを
れ。蜀しょくの勢せいをや。入替いれかて。城じゆの上うより。雨あめの降ふり。矢やをあつま

れ元より。蜀の大將魏延ゐえん。孔明くのうが計けいを受うけて。崔涼さいりょう。城じゆを生
るおと待まつて。きりよ攻こうよせ。虛きよのりて。奪だつひ。りのち。その時。崔
涼さいりょう。前後ぜんご。又敵てきあり。城じゆ中なか。入いることも。叶かな。天水郡てんすいぐんをとめて。
落おちける。不ふ。向むか。一鹿いちろくの軍馬ぐんば。誅しゆく。蒐さんり。大おほき。旗き。やまと。
輪りん中なか。いと。向むか。鶴氅つるま。ときて。車くるまの上う。坐すわり。の。あ。是これす
うち。孔明くのう。あら。けり。崔涼さいりょう。おどろき。馬まを回まわして。逃なげふと。を。る。
關かん。真ま。張苞ちやうほう。二手にじゆの勢せい。計けいを生う。何なんへ。逃なげふ。を。今いま。降ふり秦せんせよ。と。よ
もうけり。崔涼さいりょう。四面よめん路じゆ。あきと。と。卒そつ。み。馬ま。す。ち。て。降ふり人ひと
と。あ。孔明くのう。吉よし。んで。重じゆ。う。や。ま。ひ。乃の。ち。問たず。て。曰いく。今いま。夏侯かくこう。掾えん。が。逃なげふ
あ。ま。う。た。る。南安郡みなみあんぐんの太守たいしゆ。へ。御邊ごへん。と。交かわ。深ふか。崔涼さいりょう。曰いく。南安
郡みなみあんぐんの太守たいしゆ。へ。楊阜ようぶ。が。族弟しゆだ。と。楊陵ようりやう。と。を。わ。の。ち。某もしと

齋あらゆ人交の深きこと兄弟のじ。孔明が曰く。御辺路へ
南安の城に入りて。楊陵又利害と貌。夏侯楙と生捉て降
え。崔涼が曰く。志をもべ暫く。南安城の圍をときり。某城中
みへく。とめよ生て降るべ。孔明が曰く。志とく。圍を解く。二
十里までまけと。崔涼と一騎。城の門をひらく。内みへて
太守楊陵又曰く。右のむひき父明を。計りけり。楊陵が曰
く。モニタク。魏の恩を受て。今いばく。蜀は降らん。さう敵
の計。又就て。へりて。計と用ひ。奴原と臘を潰させしと。崔涼
と共。又夏侯楙が前より。の由を告げよ。夏侯楙が曰く。ひうある
計を用ひ。き。楊陵が曰く。今崔涼がともやうりて。某城を開
く。降参をと詣り。蜀の勢を引入り。城中を殺し。今崔涼
と降参をと詣り。蜀の勢を引入り。城中を殺し。今崔涼

ひを。孔明が陣を。行ふ。の計と。行ひす。崔涼をあら城を
生く。孔明又。某今楊陵をあら。降参をとむる。楊陵
元より。蜀は降らんと。あらへん。もどる。手下の勇士もく。あ
きよすく。夏侯楙と。生取来る。と。克を。也。亟相も。がくら。兵
そ。弘を。攻めり。ひり。内より。門を開ひ。引ひ。を。ひと。ひひけれ。
孔明が。白く。楊陵を。と。味方を。降る。人。ある。と。たゞ。夏侯楙と
生捉。と。掌の内。あら。若。楊陵が。勢を。少。き。患。を。今。御辺。又
か。置。安定郡の勢を。仕立。城中を。伏。あた。夜半の。あら。我自
ら。あ。よ。す。と。そ。と。お。御。辺。を。楊陵と。門を開き。う。崔涼
あ。と。と。や。と。ふ。の。内。を。お。ゆ。ひ。け。え。若。蜀の。丈。將。と。伴。ち。よ。ば。と



云が孔明うちらを疑ひ。おほし城中より伴ひ行ひ。是と
殺をへて。尊命よりぐれんと答へ。孔明。けろふま
大將関與張苞二人を御辺伴あひて城中より。夜半より
の手をあげて合図を志す。とくにうちら兵を引いて攻入。夏
侯楙と生取れて。日もで暮けり。關眞。張苞二人をまじ
一々甲子。安定郡の勢力をとり。崔涼を志たがて。南安の
城下まで到り。けり。太守楊陵矢倉の上より。問て曰く。さうへ
何の勢ぞ。崔涼答へ曰く。さうへ。安定郡より後の勢もうひと
て。ひそみ矢を城中より射入り。楊陵もとてえ。其矢
ユ文を拴付たり。開てちとそつそく。今孔明二人の丈将や我
ユ副。城中より攻ノと。少しもあどうき。門を

開け。城中より入て。後よりえきて討へ。とありけり。急ぎ。夏侯楙
とそのひと語る。夏侯楙大よりよろび。孔明をとゞ。もぐ計も落と
り。先ひの用意をせよ。精兵百余へと油幕の隕よ藏。置
今蜀の大將二人。崔涼と共。城より入る。早く門を閉て討ひ
う。其の後火の手をあげて。相図をあま。孔明うちらを自ら來
べ。其とを尽くして討取。とて用意をと。備りけり。楊陵
門をあらう。是へ御入る。とてむえける。関與。崔涼より。前
よりとも。張苞へよどと後より。けれる。楊陵が止る。不て。関與ま
げ。一刀。又斬死す。崔涼をどろき。計のあらむ。と志り。馬を回
て逃んと。とどり。張苞大音あげて。汝ホヤシ。も。巫相。と。歎く
と計も。味方の大軍をとよ来り。我まの門を開く。とちよ。姿

又從ひ來きとよざり。矛と取のべ。崔諒とさー。殺を。閔與と
で。城中々入りて火をうければ是と相圖。又四の大軍四方より
乱とへる。夏侯楙防べきゆう。南の門より落けう。布。一手
の勢途と塞ぎ。四の牙門將軍王平馬を飛して討へかり。而
一合。又夏侯楙を馬上々生取のあら勢を斬散を。孔明。南安
城中々入。法と生と民と安ん。又夏侯楙と檻車の内々囚へ。先
鋒。將をありわて。其功勞と記しけど。鄧芝問て曰く。巫相分
あり。崔諒が詣りとあす。孔明が曰く。と已。又乃より降
參。又起る。又あらぞ。已とと傳びて。降ると。知り。此故
ユ城中へ入。と試る。又彼うちを。実とゆて。夏侯楙。又告計
工と。計と用ひんと。巧もぐ。と。又彼が来るを。とて。よく

その詐あつて。志承。そののゆえ。又閔與。張苞を副と。城中々遣さんと
へり。彼らと安らし。疑ふと。あきと。あらじむる。彼は。實
の心。あらば。閔與。張苞と伴ひ。行。却て。欣然。と。と。伴ひ。行
へ。又。疑ひ。んと。と。怕。と。あり。我。と。称。て。二人。又。計を。授。け。城外。と
あ。と。斬。し。む。是。城中。え。敵の。伏。わらん。と。と。量。る。ゆ。あ。我。又
大軍。後。又。ほ。い。攻。か。ろ。は。是。又。不。意。み。生。る。を。の。あ。り。と。ひ。ひ。れ
べ。諸。え。將。と。あ。革。服。と。孔。明。又。曰。く。と。崔。諒。と。其。ひ。と。安。定。と
城。す。と。生。し。南。安。の。後。攻。と。向。む。と。勇。て。人。を。仕。立。魏。の。人。將
裴。緒。と。の。今。の。あ。り。と。と。救。と。乞。し。む。る。と。依。て。あ。り。又。天。水。郡。へ。
人。を。遣。し。太。守。馬。遵。と。あ。ざ。じ。き。城。を。止。て。後。攻。せ。さ。せ。ん。と。計
が。今。又。そ。の。便。と。き。う。を。此。と。た。又。の。の。て。攻。取。べ。し。若。三。郡。と。取。と。た

。威勢大々振。大將吳懿。とくやて。南安を守らせ。劉
琰。とくやて。安定を守らせ。魏延。と。安定の城よりよび回して。元
水郡。又進發を

繪本通俗三國志六編卷之七終

